岩手県立大学看護学部紀要 17：51 － 55，2015
Journal of the Faculty of Nursing，Iwate Prefectural University

ワシントン州立大学における研修報告

千田睦美

A Report of Washington State University

Mutsumi Chida

キーワード：ワシントン州立大学，研修報告
Key words：Washington State University，Report

Ⅰ　はじめに

本学看護学部とワシントン州立大学Washington State University（以下，WSU）は，2008年から学生を対象とした短期海外研修を通じて交流が行われており，今年度正式に学部間協定が締結された．看護学部学生の希望者を対象とした海外研修から交流がはじまったが，研修の充実と学生の国際看護への学習ニーズの高まりが相まって，国際看護論演習の一部として短期海外研修が位置づけられ，さらに双方の学部間の連携が深まっている．

このような経緯をふまえ，今回，教育力強化の一環としてWSUにおいて研修する機会を得た．今後WSUとは学生の研修中心の協定関係から，教員や大学院生の研究における連携に拡大する可能性を期待されており，短期間ではあるが今回の経験を通じて多くの学びを得た．研修内容と学びについて報告する．

Ⅱ　WSU College of Nursingの概要

ワシントン州立大学はアメリカ北西部のワシントン州プルマンに本部を置き，同州内に４カ所のキャンパスを持つ総合大学である．その中でもCollege of Nursingはワシントン州Spokaneにキャンパスを置き，Yakimaなど同校の他キャンパスと遠隔講義も行っている．SpokaneはWSUのほかにイースタン・ワシントン大学，ゴンザガ大学，ウィットワース・カレッジと４年制大学が4つあり，教育が充実した都市である．また，病院や高齢者，ホームレスのための施設も比較的充実しており，多くの移民が暮らす都市でもある．WSUのCollege of Nursingでは，シミュレーション・ラボにおける教育が全米の中でも大変充実しており，質の高い看護教育と研究が行われている大学である．

Ⅲ　研修日程と研修内容

研修日程は2014年９月７日～９月17日（現地日程）であり，研修内容およびスケジュールは表１の通りである．

表１　研修スケジュール

9月7日(日)	現地到着
9月8日(月)	研修日程確認，WSUの教育と認証評価について，共同研究打ち合わせ
9月9日(火)	老年看護学概論クラスでのプレゼンテーション，授業聴講，国際交流委員会出席，学部長と昼食・今後の学部間交流の可能性について意見交換
9月10日(水)	高齢ホームレス施設見学，学生の研修に関する打ち合わせ
9月11日(木)	Practice Lab見学，共同研究打ち合わせ，講演会参加
9月12日(金)	共同研究打ち合わせ，学部教員向けプレゼンテーション，
9月15日(月)	老年看護学教育について意見交換，Culture　Classでのプレゼンテーション，授業聴講，Simulation Lab見学
9月16日(火)	高齢者施設見学
9月17日(水)	現地出発

受付日：平成 26 年 9 月 26 日　受理日：平成 26 年 11 月 26 日
岩手県立大学看護学部　Faculty of Nursing，Iwate Prefectural University

研修内容の詳細は以下の通りである．

１．老年看護学領域における教育・臨床

１）老年看護学教育

今回の研修ではDr. Catherine Van Sonがスケジュールコーディネーターとして，研修受け入れにご尽力いただいた．Dr. Van Sonは老年看護学のAssistant Professorであり，老年看護学の基礎教育で基盤となる看護理論や具体的な教示方法とその工夫などについてディスカッションを行った．Dr. Van Sonは視覚教材やインターネットを活用した老年看護学教育と教材開発を積極的に行っており，遠隔で講義を受講する学生への教育を行っている大学ならではの取り組みであると感じた．授業内容のハンドアウトはなく，レジュメもすべてインターネット上で公開されており，学生はラップトップを授業中に開いて講義を受けていた．遠隔授業の増加や履修生の利便性を考えると，このような講義形式に対応できるよう，教員側の準備が必要であると感じた．

老年看護学の教員が担当する講義は，いわゆる「概論」としての教育内容が主であり，疾患に関する看護方法については基礎教育で終えている．具体的には，「高齢者を取り巻く環境をアセスメントし，それに応じた看護方法を選択・実施する」という講義内容から，学生たちはさまざまな健康状態にある高齢者に対する看護を具体的にイメージし実践していくというように，学生自身の力で講義と実習との積み重ねがなされることを求めている，とのことであった．

２）看護における異文化理解

Culture Classの講義において，日本文化についてプレゼンテーションを行い，その後講義を受講した．プレゼンテーションの時間では，日本の文化，特に高齢者と若者文化と世代間交流について報告し，アメリカとの比較について学生と意見交換を行った．学生の関心は，日本の高齢者の長寿の理由と，日本の欧米化について日本人はどのように感じているのか，という点であった．

実際のCulture Classの講義内容は日本における国際看護の範疇を大きく超えるものであった．異文化が混在している社会が当然のものとして存在しているアメリカにおいて，異文化の理解と看護に関する内容の具体性に圧倒された．

例示されていたものとして，宗教や文化的背景によって食事が制限される患者への食事指導をどのように行うか，というテーマが議論されていた．扱うことが可能な食材についてのみではなく，どのような方法で料理されなければならないのか，戒律に従ったキッチンやレストランとはどのようなものか，という大変具体的なものであったが，食事について患者と一緒に考えるときに，疾患をふまえた食事内容という視点のみが重視される日本と異なり，さらに深く広い異文化理解に基づいた視点が必要となることを目の当たりにした．今後，日本においても看護職は宗教や文化の異なる患者と向き合うことが多くなることは明らかである．同様の教育，理解が看護教育においても行われる必要が生じるであろう．

３）老年看護の実際

本研修中に２つの高齢者施設の見学を行うことができた．

１ヶ所はTouchmarkという高齢者施設である．富裕層向けの介護付コテージから，看護職の人員配置の厚いSkilled Nurse Care棟，認知症の専門フロアまでを一手に経営する大規模施設である．アメリカ国内に多数の施設を有し，Spokaneにある施設だけでも，320名が敷地内に暮らしている．NPをはじめ，ケアスキルの高い職員が勤務し，質の高い高齢者ケアを提供しているだけではなく，スタッフ教育にも力を入れ，今後増加する高齢者ケアに特化した経営戦略を明確に打ち出している施設であった．富裕層向けの施設であるため設備も大変充実しており，建物内部の装飾やドアノブに至るまで配慮がなされており，特に介護量が比較的少なく自立した方が暮らすコテージは，入居者が決まるとその方のADLや希望する暮らし方にあわせて建物内のリフォームを行っていた．敷地内には美容室やマッサージルームは勿論，エステサービスやビリヤードルーム，図書室も整備され，入居者の多様なニーズに応えることができる環境であった．看取りまでケアをすることを約束し，高齢者が人生の最後の比較的長い時間を暮らすことを支援する施設であった．

図１　Touchmark on South Hill Spokane の外観

図２　ダイニング

図３　敷地内にあるコテージタイプの居住施設

図４　新しい入居者のためにリフォーム中のコテージの様子

図５　施設内の図書館（元司書の入所者がボランティアで蔵書管理を行っている）

もう１ヶ所はClare Bridge Alzheimer's and Dementia Careである．認知症専門施設であるClare Bridgeは，13年前に設立され，施設全体では60床あるものの，日本のユニットケアのように小グループごとにケア単位が構成されている様子であった．入り口は施錠されているが，玄関ホールは大変広く，屋内ではあるものの町並みのように作られていることで，外出が自由に出来ない認知症高齢者であっても，外出した気分を味わうことができるよう工夫されていた．Touchmarkとは異なり，生活感のあるこじんまりとした雰囲気に装飾されているのは，このような環境のほうが認知症高齢者は落ち着いて時間を過ごすことが出来るからであるとのことだった．多人種が共同生活を行う場であるため，文化的背景に応じたケアを行うことに配慮がなされており，食事メニューの多様さもその影響であるとのことであった．在宅ホスピスと連携し，ナースの訪問もあるため，医療的処置が必要な高齢者のケアも可能になっていた．米国における認知症高齢者は，アメリカ・アルツハイマー協会の報告によると2010年には530万人といわれ、社会的な問題となっている[1)]．また，日本と同様に若年性認知症が増加しており，65歳以下の方も入所しているとのことであった．

これらの経済的に恵まれた高齢者が利用する施設がある一方で，医療保険や年金に加入していない貧困層のためにボランティアで食事を提供する施設も見学することが出来た．高血圧症や糖尿病，パーキンソン病などを抱えながらも，医療機関を受診し適切な治療を継続することが困難な住民が利用する施設に，看護職者が巡回し簡単な健康チェックや健康相談を行うことによって，疾患の重度化を防ぐ役割を担っているとのことだった．

図６　Clare Bridge Spokane

図７　玄関内部（町並みが再現されている）

図８　収穫の時期の演出

２．共同研究

研究担当Assistant DeanのDr. Corbettを交え，Dr. Van Sonと共同研究の可能性について検討した．WSUはResearch Universityであり，研究に大変力を注いでいる．日本は高齢者看護の先進国であり，米国が学ぶことが多い，とのことで多くの時間を双方の研究課題についての意見交換に費やした．

認知症ケアの評価についての意見交換の際には，アウトカムとして認知症のBPSDの軽減や認知症高齢者のQOL向上だけでなく，ケアスタッフの負担軽減，経済的負担の軽減という視点について含めることが重要であるとされ，保険でカバーされないサービスを受けている高齢者の多いアメリカ社会においては，日本よりもそのような視点が重要となるのだと痛感した．

Ⅳ　おわりに

今回の研修では，老年看護学教育と研究において大変充実した意見交換を行うことができた．米国と同様の課題がある領域や，全く異なる視点が必要となる点など，ディスカッションに多くの時間を費やすことが出来たことで，理解が深まったことが多かった．

日本は高齢化率先進国ではあるが，高齢者看護先進国であるとはいえない．老人看護専門看護師は平成26年10月現在，66名しかいない．高齢者看護のモデルになる高齢者看護先進国になるために，看護基礎教育として必要な内容や，資格取得後の教育として専門性を深めるための方策など，今回の研修により幅広い視野で再考する機会が得られたことに感謝したい．

謝　辞

本研修へ参加する機会をいただきました看護学部のすべての先生方に深く感謝いたします．

また，すでにご退職されていながら研修スケジュールの調整にご尽力いただきましたCarol Allen先生，滞在中に多くのご配慮をいただきました看護学部長Patricia Butterfield先生に深謝いたします．

引用文献

１）Alzheimer's Association,2010 Alzheimer's Disease Facts and Figures, http://www.alz.org/documents_custom/report_alzfactsfigures2010.pdf（2014年11月20日閲覧）